2016 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	東洋研究所
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(1)	8-1 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。
評価の視点	産・学・官等との連携の方針の明示
	地域社会・国際社会への協力方針の明確化
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-1	・連携の方針の明示、及び協力方針の明確化は特にされていない。
8-2	・年 4 冊の機関誌『東洋研究』、刊行物『藝文類聚』、『茶譜』、研究班研究成果、年 2 回の『所報』の発行をしている。 ・ホームページを作成し毎年更新して公開している。 ・研究員による年 3 回の公開講座を毎秋 11 月に開催している。 ・吉林師範大学東亞研究所との交流協定を締結している。 ・学外組織とのシンポジュームや研究会の共催を行っている。2015 年度は以下の 2 件。 2015 年 11 月 8 日　第七回「東西文化の融合」国際シンポジウム クールジャパン！クール・タカラヅカ！2「『新源氏物語』の出典論と翻訳論・タイにおける日本語教育」 2015 年 11 月 13・14 日　国際会議「南アジアにおける社会変動と文化変容―周縁からのアプローチ―」を共催 ・研究班においては研究会に研究員以外の者の参加を認めている。 ・年に 1 回、研究員総会に於いて、外国人講師を招いての講演会を行っている。
8-3	地域連携・社会貢献について定期的な検証は実施していない。

【効果が上がっている事項】

8-1	
8-2	・2015 年度は、各研究班の研究成果として 8 冊の刊行物が出版された。 ・2015 年度公開講座には、第 1 回 35 名、第 2 回 25 名、第 3 回 30 名の、のべ 90 名（一般 67 名、教職員 23 名）が参加した。
8-3	

【改善すべき事項】

8-1	
8-2	・公開講座の参加者が固定化・高齢化している。 ・研究所が本校舎の敷地外にあるため、掲示媒体を持たない。
8-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B8-1　大東文化大学の基準別基本方針 HP
http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html　≪既出≫B1-5
B8-2　『大東文化大学 将来ヴィジョンと基本方針』(2016 年 2 月総合企画室発行)
≪既出≫B1-4
B8-21 大学データ集 ≪既出≫B1-22

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～	8-2 ・公開講座の参加者の多様化を図る。	・参加者各年齢層の人数。	→			A		

2018)								
14 年度 目標	8-2・公開講座の広報の拡大	・地域掲示板に掲示。	→	C				
15 年度 目標	8-2・11 月の公開講座とは別に新規公開講座の構想を練る。	・新規公開講座の開催時期・講師・講座内容の決定。	→		A			
	8-2・本校舎内に掲示媒体を持つ。	・本校舎内掲示板の使用。	→		A			
16 年度 目標	8-2・夏期公開講座によって新規参加者を獲得する。	・夏期公開講座参加者の年齢と人数。	→			S		
			→					